

平成18年9月期 決算説明資料

(平成17年10月1日 ~ 平成18年9月30日)

平成18年 12月 22日

ひとを大切に。自然を大切に。

ホウライ株式会社



目次 ~ CONTENTS

1. 平成18年9月期決算概要	
1-1 業績サマリー	1
1-2 営業収益・営業総利益の実績	2
1-3 事業部門別実績	4
1-4 経常利益・当期純利益の実績	7
1-5 資本準備金の減少および剰余金の処分について	8
2. 平成19年9月期計画概要	
2-1 計画サマリー	9
2-2 営業収益・営業総利益の計画	10
2-3 事業部門別計画概要	11
2-4 経常利益・当期純利益の計画	14
3. 「新中期業務計画」概要	
3-1 骨子	15
3-2 経常利益とフリーキャッシュフロー	16
3-2 部門別概要	17
(ご参考) 主要な経営指標等(実績)の推移	18
(ご参考) 事業内容のご案内	19

本資料の見通し(予想値)は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため 実際の業績は、今後の事業環境の変化等様々な要因により、予想数値とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

なお、本資料に記載の金額(実績)については、百万円未満の金額は切り捨てて表示しております。

1-1 平成18年9月期 業績サマリー



(単位:百万円)

	第122期実績 (平成17/9月期)	第123期実績 (平成18/9月期)	前期比	増減率(%)
			-	/
営業収益	5,599	5,981	+382	106.8
営業総利益	815	1,135	+319	139.3
経常利益	391	985	+593	251.9
当期純利益	377	-5,038	-5,415	-

•前期に引き続き経常利益段階まで増収増益を果たしましたが、当期から減損会計を適用し減損損失を計上しましたため、最終的には純損失となりました。

•営業収益は乳業部門以外は全て増収を果たし、全体では5,981百万円(前期比382百万円増)となりました。

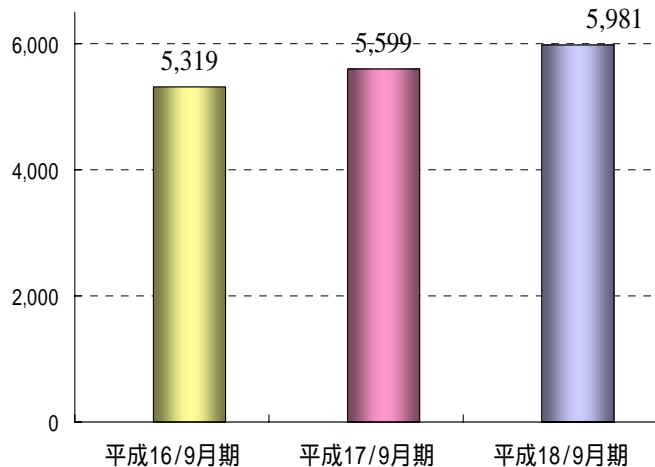
•固定資産の減損処理に伴う減損損失を特別損失に計上しましたため、最終的な当期純損失は5,038百万円(前期比5,415百万円悪化)となりました。

1-2 平成18年9月期 営業収益・営業総利益の実績(その1)

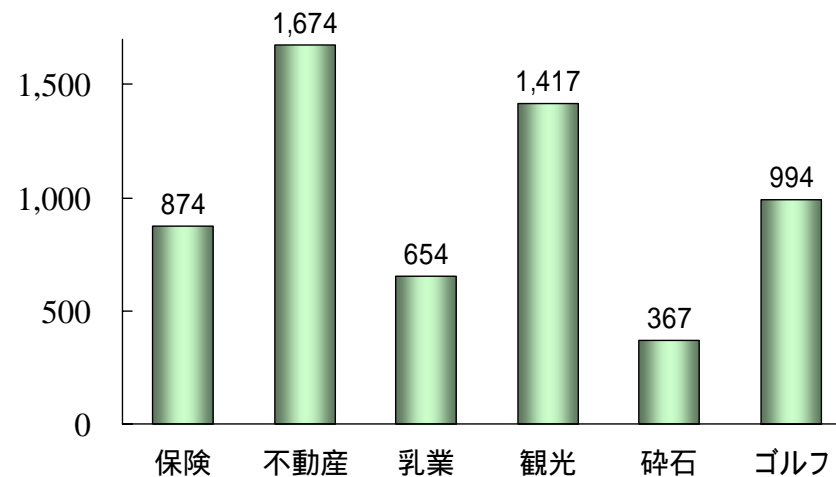


営業収益

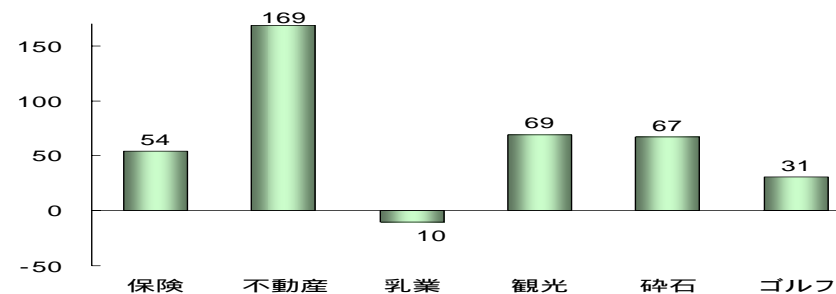
(単位:百万円)



部門別内訳



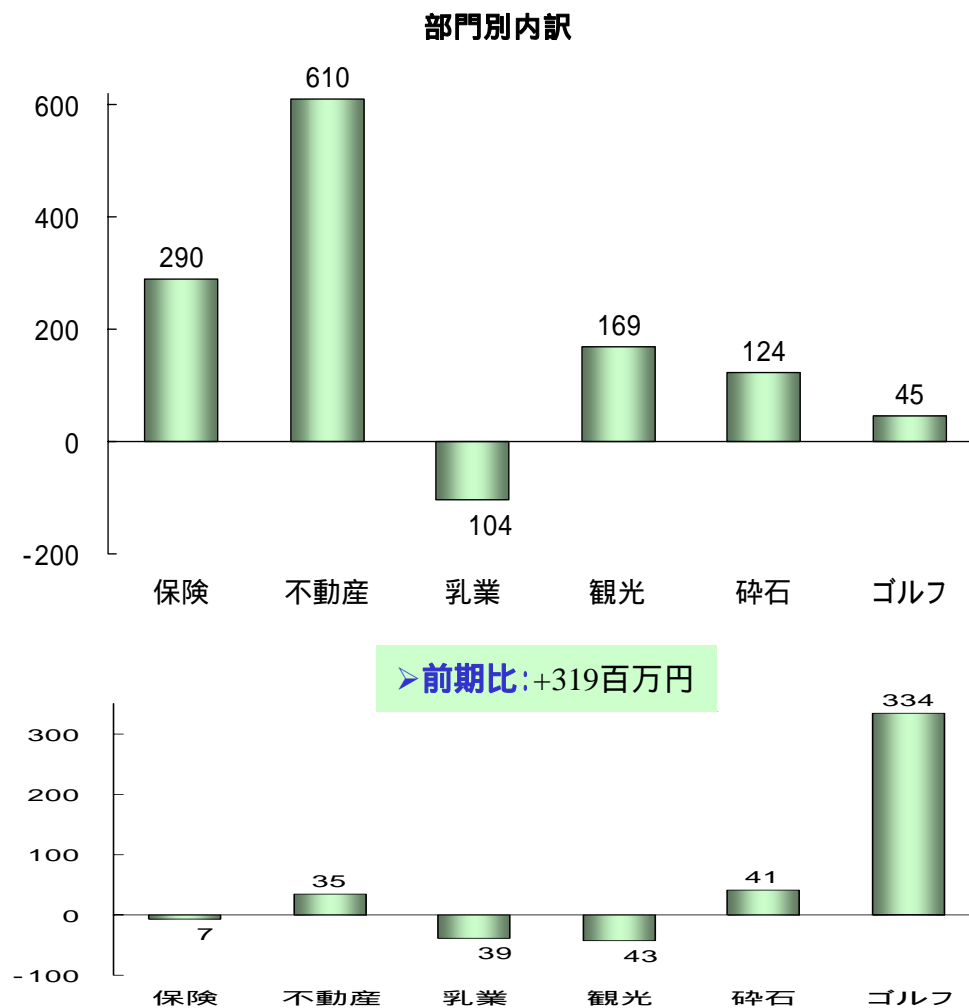
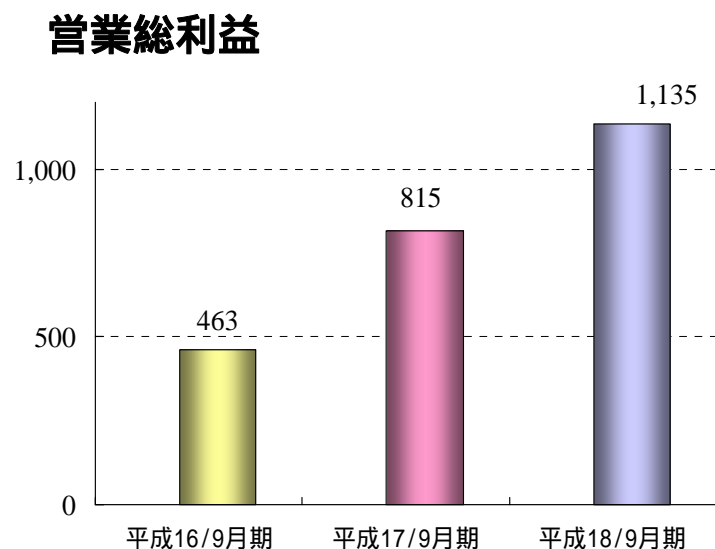
▶ 前期比: +382百万円



1-2 平成18年9月期 営業収益・営業総利益の実績(その2)



(単位:百万円)

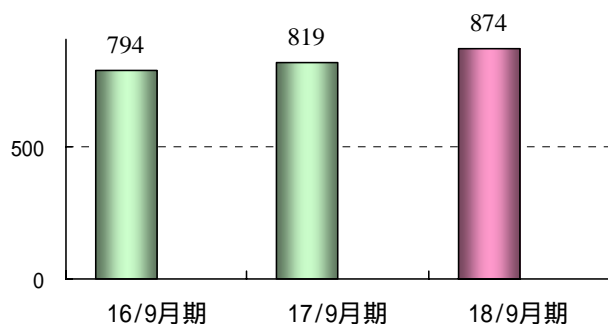


1-3 事業部門別概要(その1)

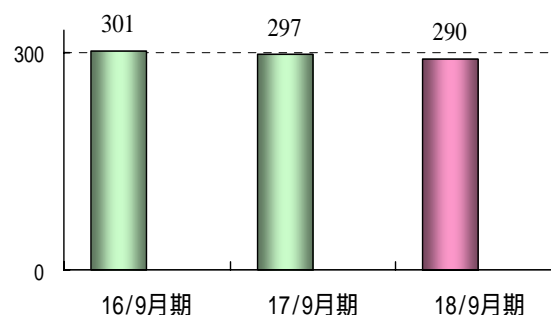
保険事業

(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

< 営業収益 >



< 営業総利益 >

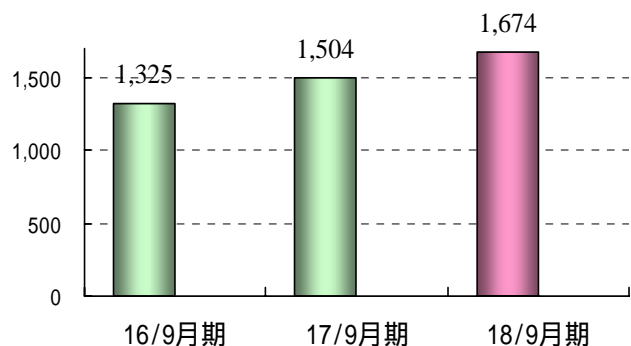


保険事業

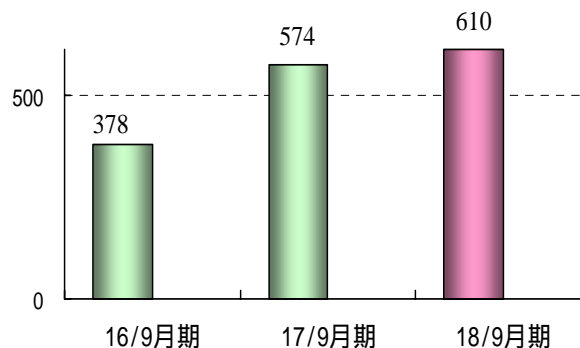
コンサルティング営業の強化と保険代理店営業権譲受など積極的な営業基盤の拡充により手数料収入が伸び、営業収益は874百万円(前期比54百万円増)を確保しました。一方、営業増強に伴い営業原価が増加しましたため、営業総利益は290百万円(前期比7百万円減)となりました。

不動産事業

< 営業収益 >



< 営業総利益 >



不動産事業

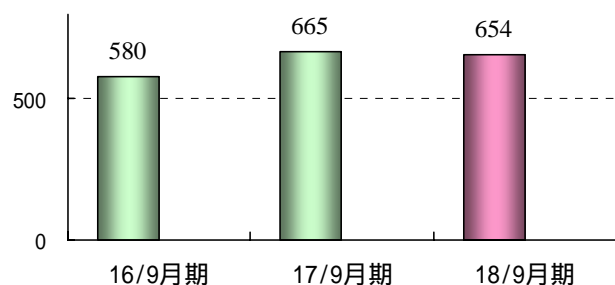
平成17年3月に取得しましたさくら堀留ビルの賃料収入が通年で寄与し、営業収益は1,674百万円(前期比169百万円増)となりました。空調設備更新など維持・補修費用も増加しましたため、営業総利益は610百万円(前期比35百万円増)となりました。

1-3 事業部門別概要(その2)

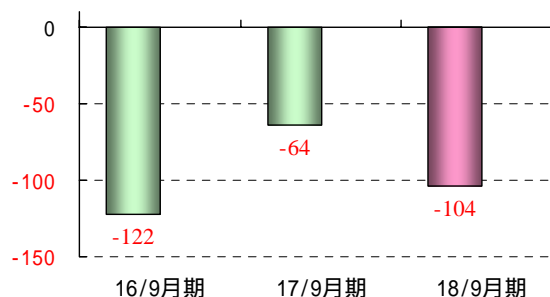
乳業事業

(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

< 営業収益 >



< 営業総利益 >

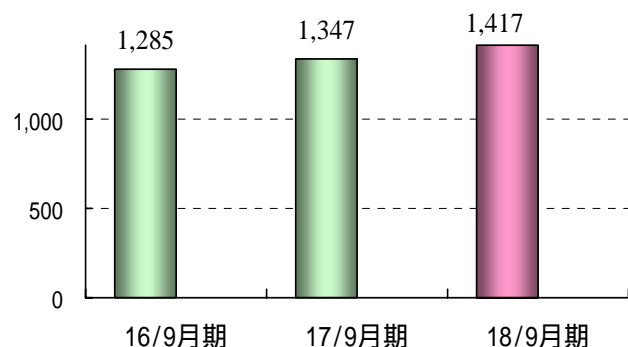


乳業事業

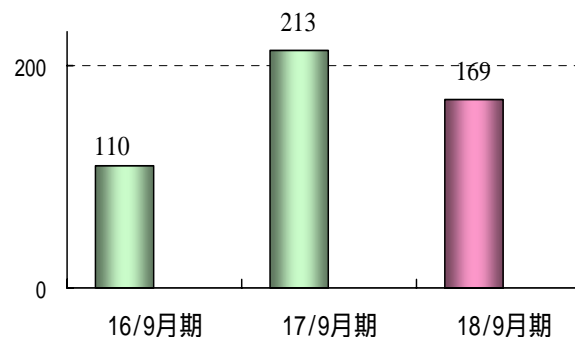
一般製品の販売に関しましては、高品質を訴求する販売戦略に転換を図りましたものの、全国的な牛乳需要減少の中、十分な効果をあげるに至らず、ソフトクリームショップと生乳販売の前期からの反落も重なって、営業収益は654百万円(前期比10百万円減)となりました。新製品取扱に伴う製造原価増などもあり、営業総損失は104百万円(前期比39百万円悪化)となりました。

観光事業

< 営業収益 >



< 営業総利益 >



観光事業

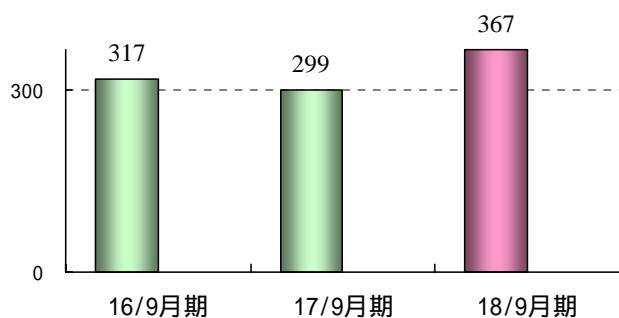
長梅雨等天候面でのマイナスもありましたが、行楽需要の伸びと前期・前前期の施設拡充の効果もありジンギスカン、ソフトパーラー、売店等全般的に好調で営業収益は1,417百万円(前期比69百万円増)となりました。一方、平成18年3月にカフェテリアをリニューアルオープンしましたが、開業費負担が先行し、営業総利益は169百万円(前期比43百万円減)となりました。

1-3 事業部門別概要(その3)

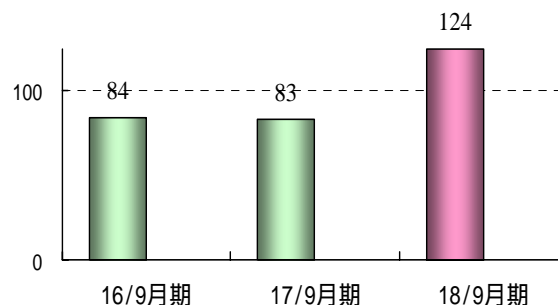
砕石事業

(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

< 営業収益 >



< 営業総利益 >

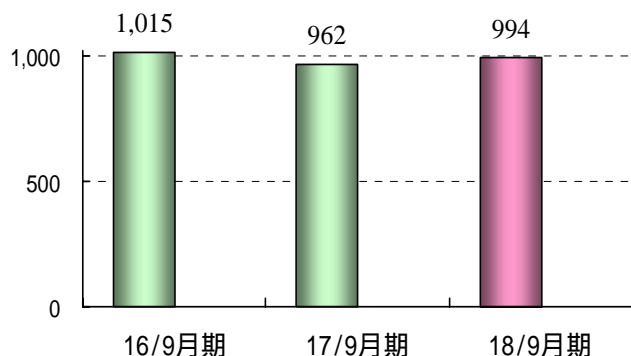


砕石事業

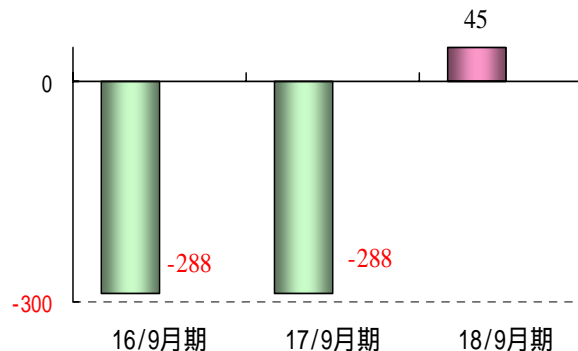
矢板市の公共工事や宅地造成工事向け販売の好調に加え、事業廃止前の駆け込み需要もあり、営業収益は367百万円(前期比41百万円増)と大幅な増収増益になりました。なお、砕石事業からの撤退に伴う原状回復工事等の後処理も予定どおり順調に進みました。

ゴルフ事業

< 営業収益 >



< 営業総利益 >



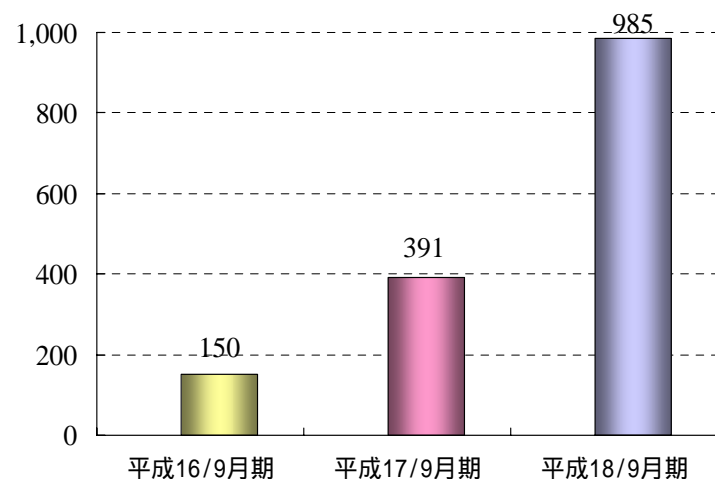
ゴルフ事業

コースグレードの維持・改善に努めるとともに肌理細かな営業を展開しました結果、来場者数が増加し、営業収益は994百万円(前期比31百万円増)となりました。増収効果に加え、経費圧縮と固定資産の減損処理による減価償却負担の軽減を主因に営業原価が大幅に減少し、営業総利益は45百万円(前期比334百万円改善)と黒字化を達成しました。

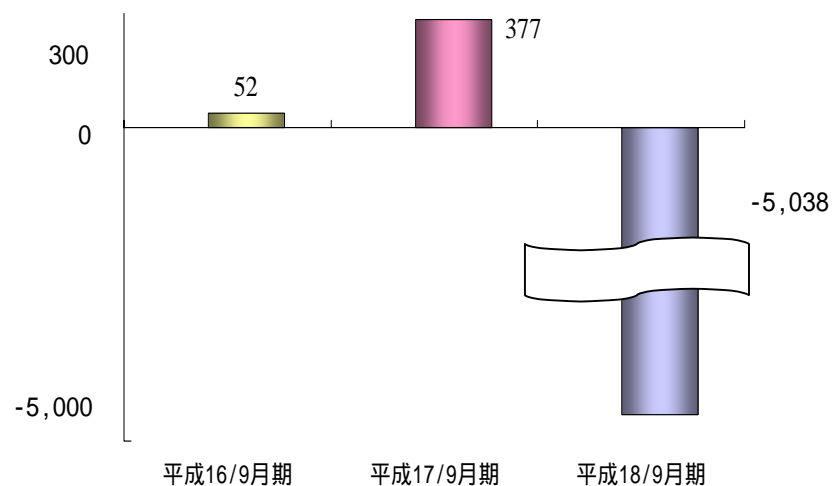
1-4 平成18年9月期 経常利益・当期純利益の実績

経常利益

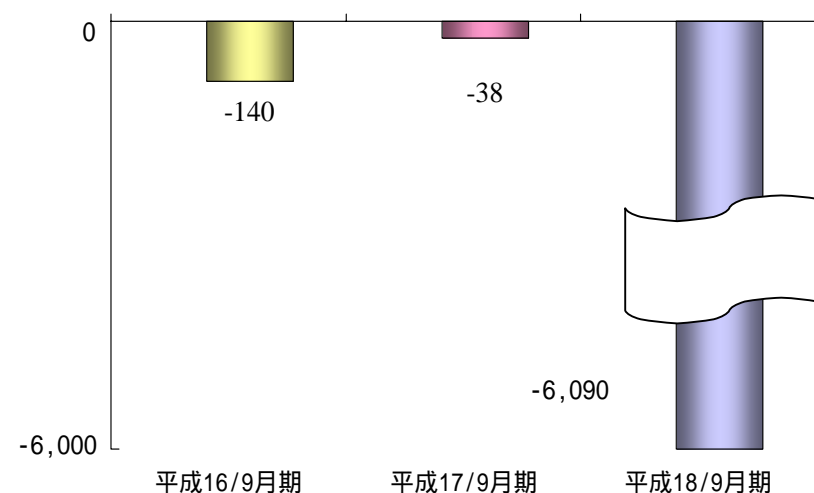
(単位:百万円)



当期純利益



特別損失

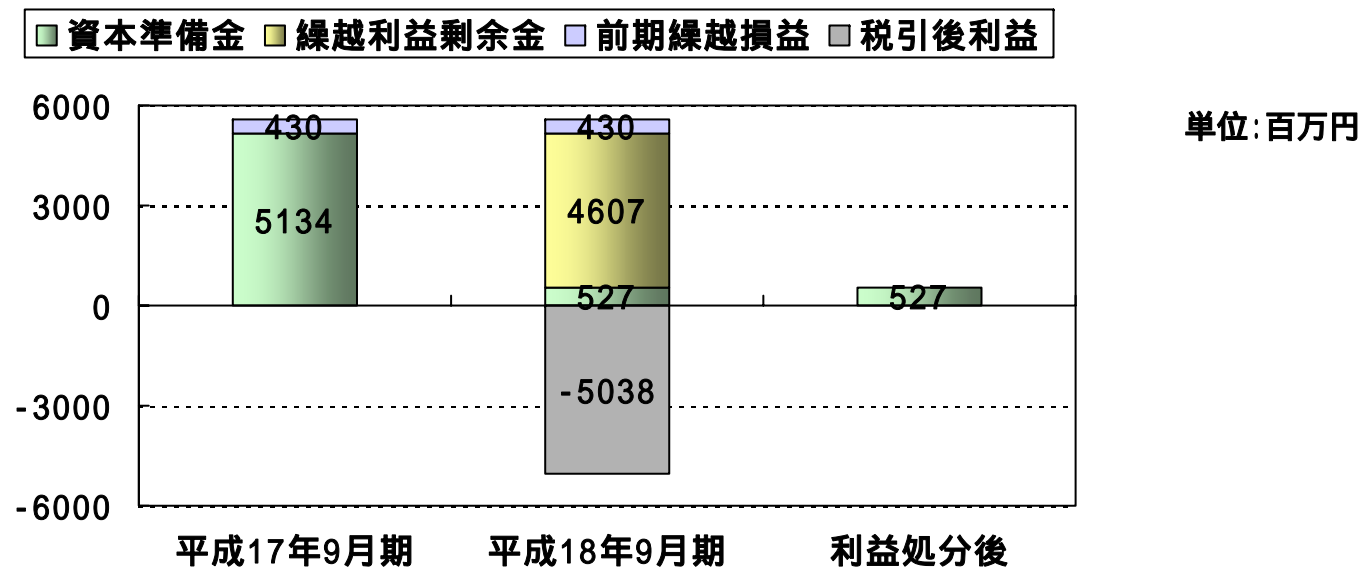


平成18/9月期

減損会計を適用し、減損損失を5,806百万円計上しました。キャッシュフローには影響ありません。その他に碎石事業廃業に伴う特別損失を計上しました。

1-5 資本準備金の減少および剰余金の処分について (固定資産の減損会計への対応)

固定資産の減損会計の適用を主因に生じた欠損のてん補のため、資本準備金の一部を繰越利益剰余金に振り替え、損失を全額処理します。



当期税引後損失5,038百万円のてん補のため、まず前期繰越利益430百万円を充当します。残額の4,607百万円をてん補するため、資本準備金5,134百万円の内、4,607百万円を繰越利益剰余金に振り替え、損失を全額処理します。これにより、資本準備金は527百万円に減少します。

2-1 平成19年9月期 計画サマリー

(単位:百万円)

	前期実績 (平成18/9月期)	今期計画 (平成19/9月期)	前期比	
営業収益	5,981	5,970	-11	全体としては、前期末に廃業しました砕石事業部門の減収減益も影響し、営業収益と経常利益は前期比減少します。しかし、営業総利益は増益、当期純利益は大幅改善となり、復配してなお内部留保可能な利益を確保できる見通しであります。
営業総利益	1,135	1,285	+150	
経常利益	985	810	-175	
当期純利益	-5,038	550	+5,588	

平成19/9月期の最大の目標は確実に復配を実現することです。

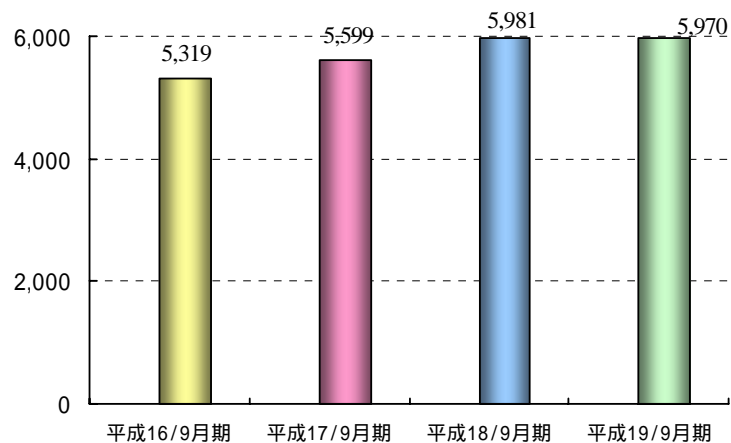
黒字部門(保険・不動産・観光・ゴルフ)・・・増収増益をめざし、保険代理店M & Aによる営業基盤の拡充・ビルグレードの維持向上・観光施設の整備拡充・ゴルフコースの高品質維持などの諸施策を行います。

赤字部門(乳業)・・・合理化と生産性向上に注力するとともに、営業戦略の見直しによりギフト・業務用等の販売基盤の強化を図り、早期黒字化を目指します。

2-2 平成19年9月期 営業収益・営業総利益の計画

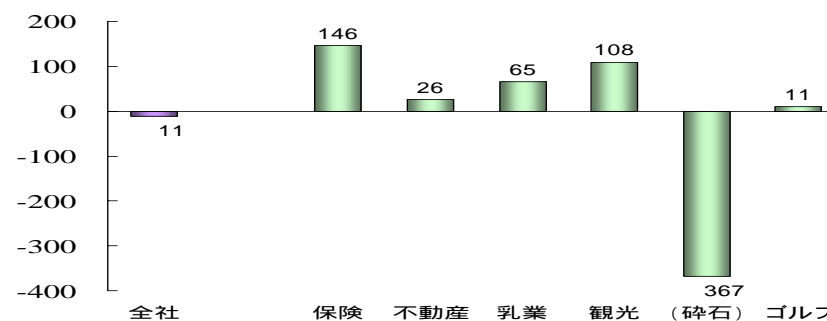
営業収益

(単位:百万円)

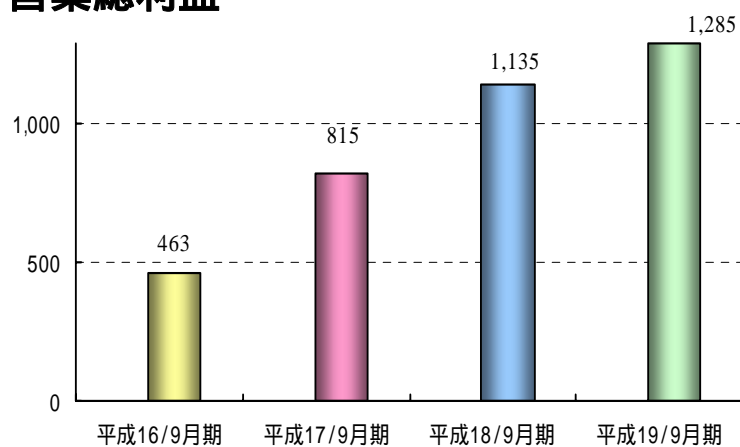


(計画)

▶前期比: -11百万円

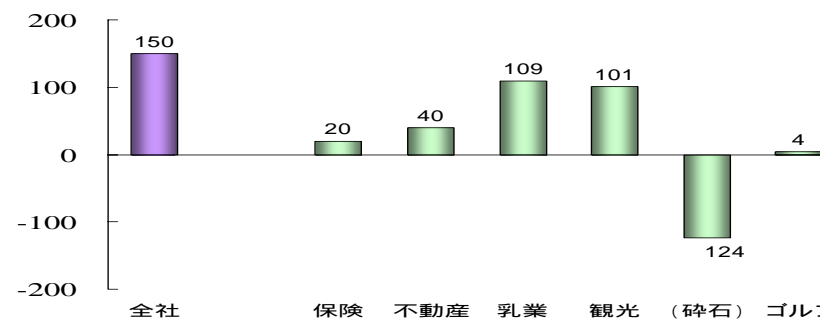


営業総利益



(計画)

▶前期比: +150百万円

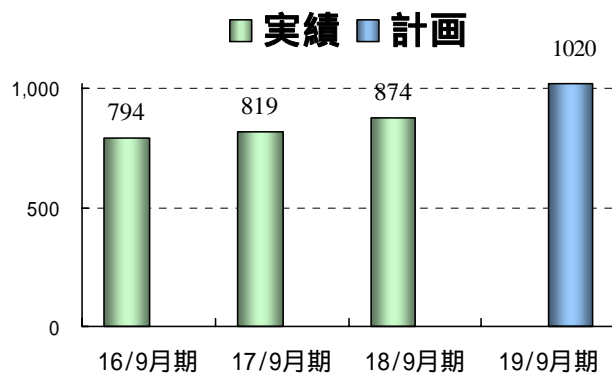


2-3 事業部門別概要(その1)

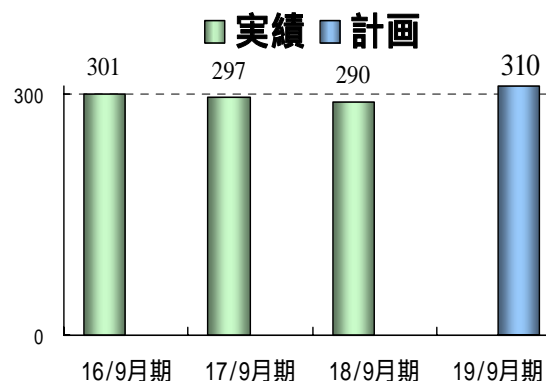
保険事業

(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

< 営業収益 > 前期比+146



< 営業総利益 > 前期比+20

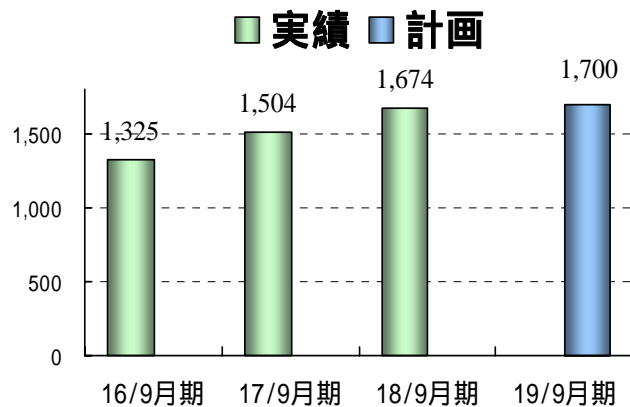


保険事業

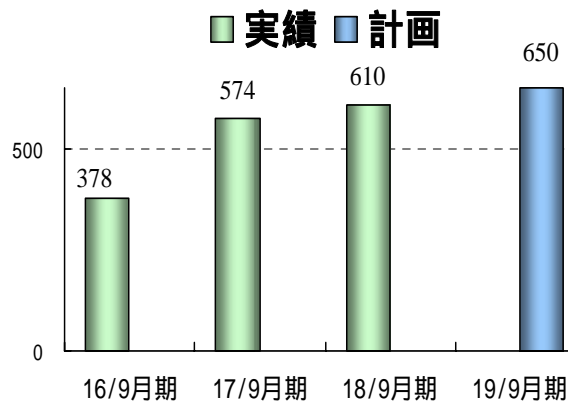
トータルリスクマネジメントサービスの充実による差別化戦略の推進や、保険代理店業務譲受等による基盤拡充により増収増益を図ってまいります。

不動産事業

< 営業収益 > 前期比+26



< 営業総利益 > 前期比+40



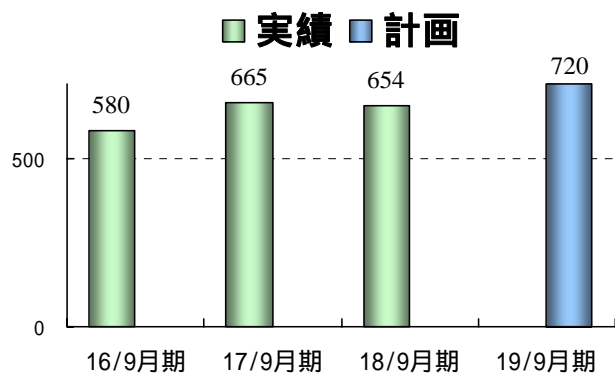
不動産事業

引き続き安定的な賃貸収入をベースに増収増益の見込みであります。

2-3 事業部門別概要(その2)

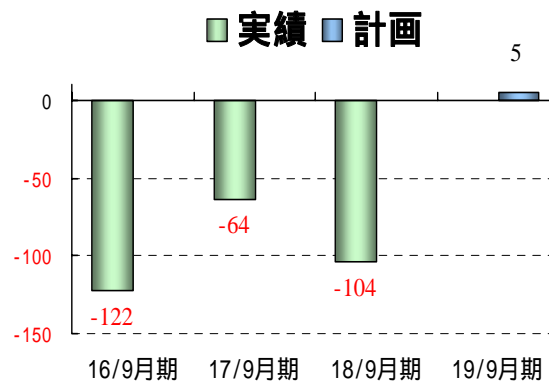
乳業事業

< 営業収益 > 前期比+66



(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

< 営業総利益 > 前期比+109

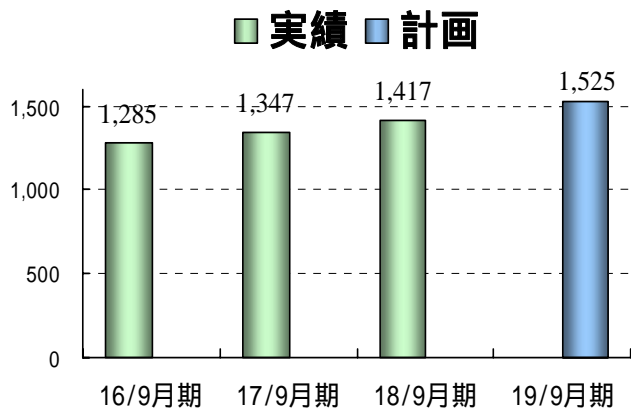


乳業事業

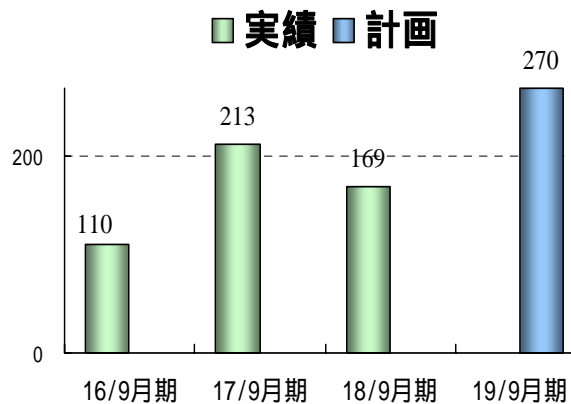
合理化と生産性向上に注力するとともに、営業戦略の見直しによりギフト、業務用等販売基盤の強化を図り、早期黒字化を目指します。

観光事業

< 営業収益 > 前期比+108



< 営業総利益 > 前期比+101



観光事業

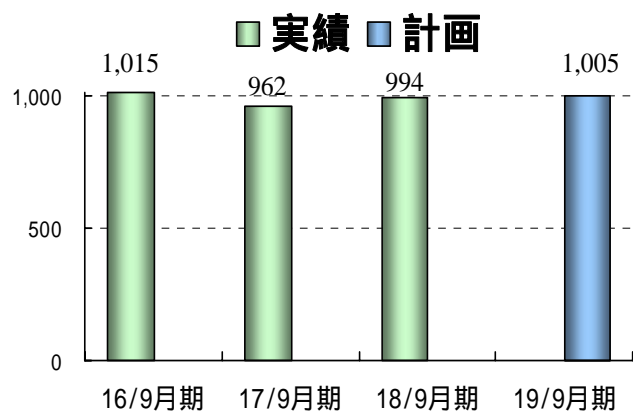
リニューアル後のカフェテリア(ミレピーニランチョ)の収支改善や売店・温泉浴場等設備の整備・拡充により、那須地区事業の柱として増収増益を図ってまいります。

2-3 事業部門別概要(その3)

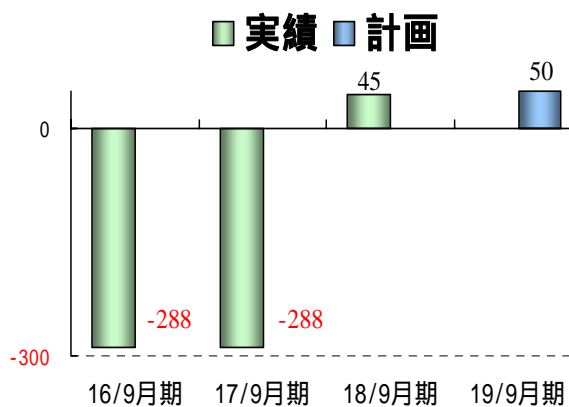
(単位:百万円、百万円未満切り捨て)

ゴルフ事業

< 営業収益 > 前期比+11



< 営業総利益 > 前期比+5



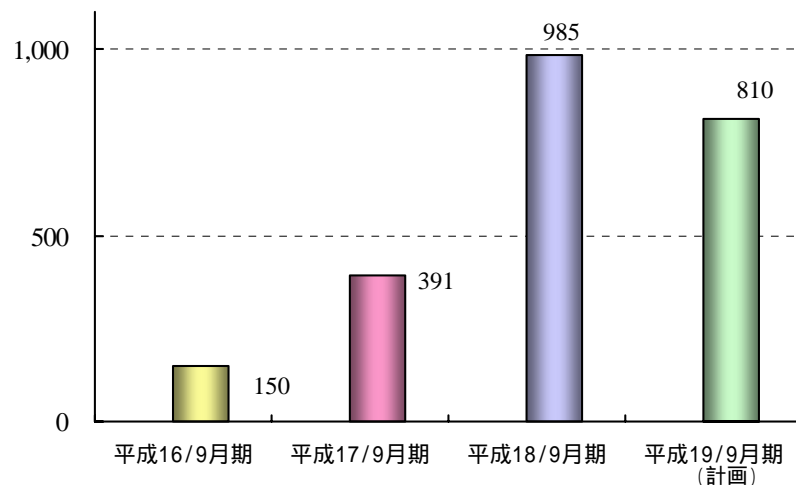
ゴルフ事業

コースの高品質を維持しながら営業収益の増加を図るとともに、引き続きコストダウンに注力し、安定的な黒字の定着化を図ってまいります。

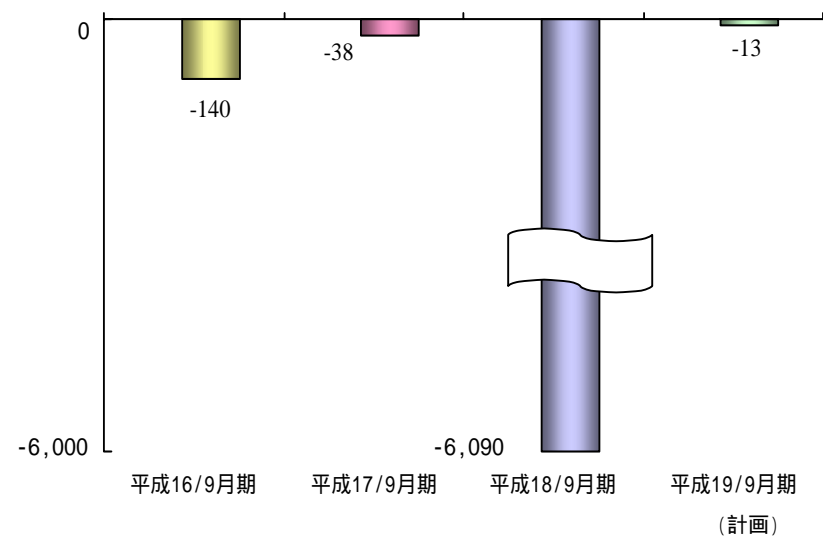
2-4 平成19年9月期 経常利益・当期純利益の計画

経常利益

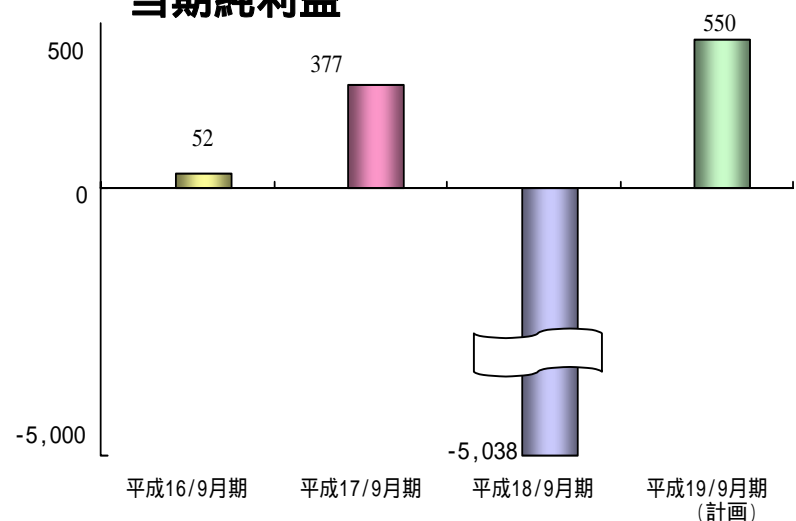
(単位:百万円)



特別損失



当期純利益



▶平成19/9期は、平成18/9期の減損会計適用による5,806百万円の減損損失及び砕石事業廃業に伴う特別損失の特殊要因がなくなり、当期純利益は大幅な増益となります。

3-1 「新中期業務計画」 骨子

平成19年9月期は、3カ年計画の2年目にあたります。

(単位:百万円)

数値的目標

当初計画どおり、最終年度の平成20年9月期には、
経常利益・フリーキャッシュフローとも**10億円**体制を実現する

取組むべき主な課題

固定資産減損会計への対応(平成18年9月期) **略計画通り完了。詳細は1-5をご参照ください。**

復配(平成19年9月期) **前述の通り、復配可能に十分な利益を確保する予定です。**

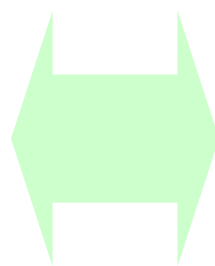
西那須野カントリー倶楽部の預かり保証金満期対応(平成20年9月期)

平成17年8月に満期を迎えましたホウライカントリー倶楽部につきましては、当社の提案に対し大多数の会員の皆様の同意をいただき略完了しました。平成20年5月に期限を迎える西那須野カントリー倶楽部につきましても、適切な対応を図ります。

減損会計対応

復配

保証金満期対応



経常利益・フリーキャッシュ
フローとも

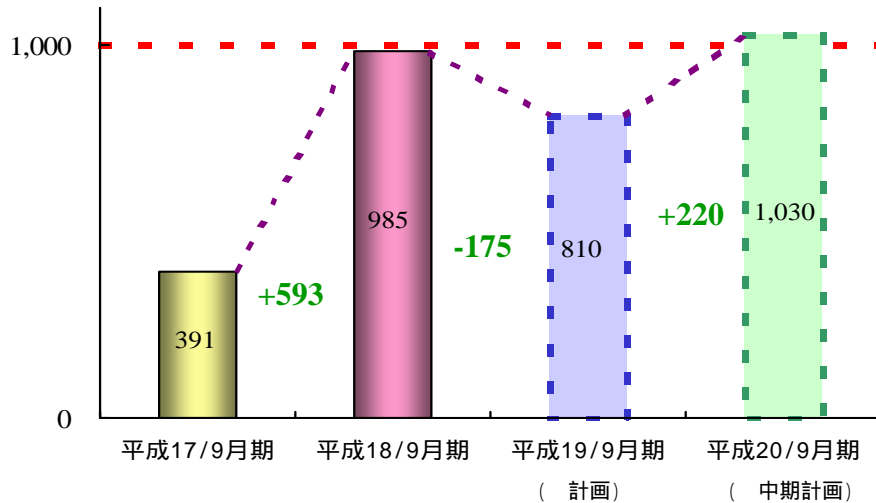
10億円体制の実現

3-2 「新中期業務計画」経常利益とフリーキャッシュフロー



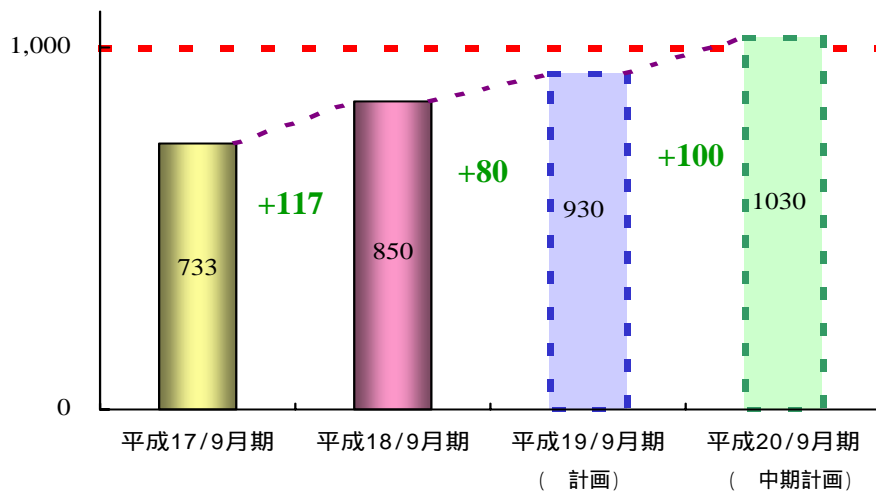
(単位:百万円)

経常利益



- ▶平成19/9期は、主に平成18/9期末に廃業しました碎石事業部の減益も影響し、経常減益となりますが、フリーキャッシュフローは930百万円確保見込みです。
- ▶「新中期業務計画」最終年度の平成20/9月期には、経常利益・フリーキャッシュフローとも10億円体制を実現することが具体的視野に入ってきています。

フリーキャッシュフロー



フリーキャッシュフロー: 償却前営業利益
+ ネット受取利息等 - 法人税等 - 更新的設備投資

平成19/9月期は、「平成18年9月期決算短信」に掲載の「19年9月期の業績予想」、平成20/9月期は「新中期業務計画」の計数です。

3-3 「新中期業務計画」 部門別施策

保険事業

少子高齢化・銀行窓口販売の全面解禁等、代理店を取り巻く環境が益々厳しくなる状況下、既存先の多種目化と共に代理店のM & Aも含めて新規基盤の拡充を図ってまいります。また、中長期的な視野に立って人材の育成・補強・雇用形態の変更等により、全体としてコストパフォーマンスの向上を図ってまいります。

不動産事業

ビルグレードの維持・テナントへの訴求力の向上に努め、当社最大の利益部門として貢献しつづけます。

乳業事業

乳牛飼育管理体制の強化による良質な原乳確保と工場稼働率アップや品質管理の徹底による生産性向上を図ります。消費者ニーズに合った新商品の開発とともに、地元密着化や販売体制の再構築など那須千本松牧場ブランドを活かした総合的な営業戦略の見直しにより黒字化を図ります。

観光事業

那須千本松地区の自然と牧場のイメージを活かした名物料理づくりや名所作りを基本コンセプトに、顧客誘致と施設の整備・拡充・運営合理化を図ってまいります。具体的施策の一例として、平成18年3月、カフェテリアを「グリル&カフェ ミレピーニランチョ」としてリニューアルオープンしました。

ゴルフ事業

コンサルタント導入による諸施策の奏功により、来場者数の安定的増加を図り、まずは両コース合算で年間来場者数6万人台、年間営業収益10億円台の体制固めを行う計画であります。一方で固定資産の減損会計適用による減価償却費の大幅減少を主因に、初年度の18/9月期より営業黒字化し、その後も着実に増収増益を計ってまいります。

(ご参考) 主要な経営指標等(実績)の推移



(単位:百万円)	平成14年9月 通期	平成15年9月 通期	平成16年9月 通期	平成17年9月 通期	平成18年9月 通期
営業収益	5,497	5,057	5,319	5,599	5,981
経常利益	-191	-364	150	391	985
純利益	-173	-1,215	52	377	-5,038
総資産額	31,948	30,600	30,679	32,654	26,438
内 現預金	2,901	3,383	4,091	4,182	3,717
総負債額	21,342	21,107	21,131	22,622	21,469
内 預り保証金	20,516	20,338	20,331	19,175	18,281
内 有利子負債	0	0	0	()2,350	2,250
純資産額	10,606	9,493	9,548	10,032	4,969
内 資本金	4,340	4,340	4,340	4,340	4,340
1株当たり純資産額	755.77円	676.83円	680.97円	715.90円	354.72円
自己資本比率	33.2%	31.0%	31.1%	30.7%	18.8%
従業員数 (名)	272	260	186	181	192
(他平均臨時雇用者数)	(59)	(59)	(113)	(120)	(117)

(ご参考) 事業内容のご紹介



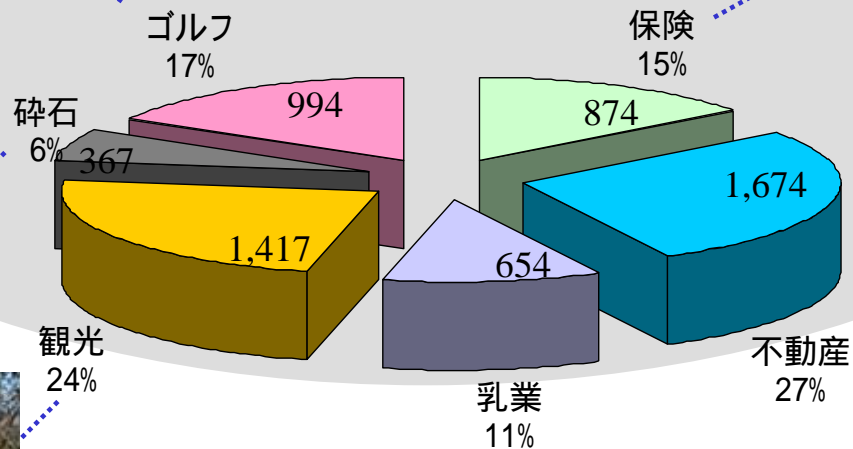
ホウライカントリー倶楽部
西那須野カントリー倶楽部の運営

砂・砂利・砕石等の生産・販売
(平成18年9月事業撤退)



レジャー施設・レストランの運営
土産品・乳製品等の販売

売上構成 (平成18年9月期実績) (単位:百万円) 合計 5,981百万円



損害保険代理店業務
生命保険募集業務



乳製品(牛乳・アイスクリーム・
ヨーグルト)の製造・販売



ビル・不動産の賃貸・管理